

3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり、環境の構成や小学校へのつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		幼児教育施設			小学校へのつながり
		～5歳児前半の姿	5歳児後半の姿	先生の関わり、環境の構成	
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。	絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けていく。また、自分の気持ちや思いを伝え、先生や友達が話を聞いてくれる中で、言葉のやり取りの楽しさを感じ、そのやり取りを通して相手の話を聞いて理解したり、共感したりするようになっていく。	絵本や物語などの読み聞かせを通して、読んでもらった絵本や物語に特別な親しみを感じるとともに絵本や物語の世界を想像したり、自分の体験と照らし合わせたりして、豊かな言葉や表現を身に付けていく。そして、経験したことや考えたことなどを先生や友達に言葉などで伝え共感できる喜びを感じたり、自分の言ったことが相手に通じず、言葉で伝えることの難しさやもどかしさを体験したりするようになっていく。さらに、相手の話を注意して聞くようになっていく。例えば、相手の話に興味をもって聞いたり、ときには友達とのいざこざなどを通じて、そのときの相手の気持ちや行動を理解したいと思い、必要感をもって聞くこともある。このような体験を繰り返す中で、自分の話や思いが相手に伝わり、また、相手の話や思いが分かる喜びを感じ、言葉による伝え合いを楽しむようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせでは、落ち着いた雰囲気をつくり、幼児が絵本や物語の世界に浸り込めるようにする。 ・幼児の動線を踏まえて、幼児の目に触れやすい場に絵本が置かれ、落ち着いてじっくり見ることができる環境をつくる。 ・語り継がれている作品は、美しい言葉や韻を踏んだ言い回し、繰り返しの言葉で声を出して楽しめるものもあるので、お話の世界を通していろいろな言葉と出会えるようにする。 ・リズムカルな節回しの手遊びや童謡を歌うこと、しりとり、短い話をつなげて皆で一つの物語をつくるなど、言葉遊びを取り入れ、いろいろな言葉に親しめるようにする。 ・先生は、正しく分かりやすく、美しい言葉を使って幼児に語り掛け、言葉を交わす喜びや豊かな表現などを伝えるモデルとしての役割を果たす。 ・先生が、幼児の話やその背後にある思いを聞きとり、友達同士で自由に話せる環境を構成したり、幼児同士の心の交流が図られるように工夫したりする。 ・幼児の状況に応じて、言葉を付け加えるなどして、幼児同士の話が伝わり合うように援助をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する。 ・自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。

3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり、環境の構成や小学校へのつながり

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		幼児教育施設			小学校へのつながり
		～5歳児前半の姿	5歳児後半の姿	先生の関わり、環境の構成	
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。	生活の中で心を動かす出来事に触れ、みずみずしい感性を基に、思いを巡らせ、様々な表現を楽しむようになる。幼児の素朴な表現は、自分の気持ちがそのまま声や表情、身体の動きになって表れることがある。また、先生や他の幼児に受け止められることを通して、動きや音などで表現したり、演じて遊んだりしながら、自分なりに表現することの喜びを味わう。	幼児が身近な環境と関わる中で、何かを感じ、考えさせられ、その感動を友達や先生と共有し、感じたことを様々な表現することによって一層磨かれていく。このように、心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々なものを遊びの中に取り込み、何かに見立てたり、素材の組み合わせを楽しんだりして、自分なりの素材の使い方を見付けていく。そうして、一つの素材についていろいろな使い方をしたり、あるいは、一つの表現にこだわりながらいろいろな物を工夫して作ったりする中で、その特性を知り、表現の幅を広げていく。そして、感じたことや考えたことを自分で表現したり友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児らしい表現を受け止め共感し、表現する意欲を高める。 ・先生のもつイメージを押し付けるのではなく、幼児と感動を共有できる感性を先生自身ももつ。 ・多様な素材や用具に触れながらイメージやアイデアが生まれるように、材質、携帯、使いやすさなどを考慮して環境を整えていく。 	・感性を働かせ、表現することを楽しむ。このことは、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、学校以降の学習全般の素地になる。

4. 幼児教育アドバイザーの配置等の主な成果

○幼保小連携の取組の充実・深化



教委主催の園小連携協議会で、小学校区単位（小1担任と幼保の園年長担任）でグループを作り、カリキュラム等の打合せ・協議の例（写真左）など管理職のみならず**担任レベルでも具体的な連携が促進**。幼小両免許を持つ教員が幼稚園側、小学校側双方に配置されている例もある。

○園種問わない幼児教育の質向上

幼稚園のみならず、**公私立の認定こども園や保育所も含めた園種問わない幼児教育の質向上の取組促進**

【自治体の事例】

Before

- ・子どもに対する保育者の指示が多い
- ・これまでの保育者主導の保育に対する違和感（これで本当にいいのだろうか…）
- ・子ども主体の環境づくりに悩む保育者

私立認定こども園



After

- ・保育中の保育者の不要な声かけが減る
- ・遊びを見直すことで子ども同士のトラブルが減る
- ・子どもの動きに合わせて保育者同士の連携がうまれる
- ・子どもの遊びにどのような意味があるのかを考えるようになる

Before

- ・保育者同士で保育を語る機会の少なさ
- ・職員数の少ない保育所ゆえの人間関係の固定化
- ・職員数の少ない保育所ゆえの園内研修実施の難しさ

公立保育所



After

- ・保育者同士で活発に情報交換をするようになる
- ・ADのアドバイスが保育者同士の雑談のきっかけとなる
- ・雑談の量が増えることで、共に保育をしていることを実感する
- ・専門的なアドバイスを受けられたことで安心する

○小学校教育との接続を見据えた幼児期の教育の研究推進

小学校教育との接続も見据え、教委が主導した**園種問わない幼児教育施設を活用した幼児期の教育の研究推進**、域内幼児教育施設への普及。

○0歳からの学びの研究（園環境を活用した新たな生活や遊びの創造（市教委）



【0歳児】



【2歳児】



【4歳児】

○幼小中一貫教育の取組の推進（市教委）



幼保小接続※学園共有
 幼児こども園、小中教員、保護者との連携

※中学校区内の公私立幼児こども園、小中学校を学園という。

思考・表現の基礎（文字・数・思考）
 思考力の芽生え、数量や図形、標識や文字などへの関心
学びに向かう力
 好奇心、協同性、考えを伝える力、がんばる力など
生活習慣
 自立心、道徳性・規範意識の芽生え、健康な体、社会生活との関わりなど



学園推進委員会を定期的実施

○上記のほか、特別支援教育や要保護児童等に関する幼児教育施設と小学校との円滑な連携の取組例が見られる。